

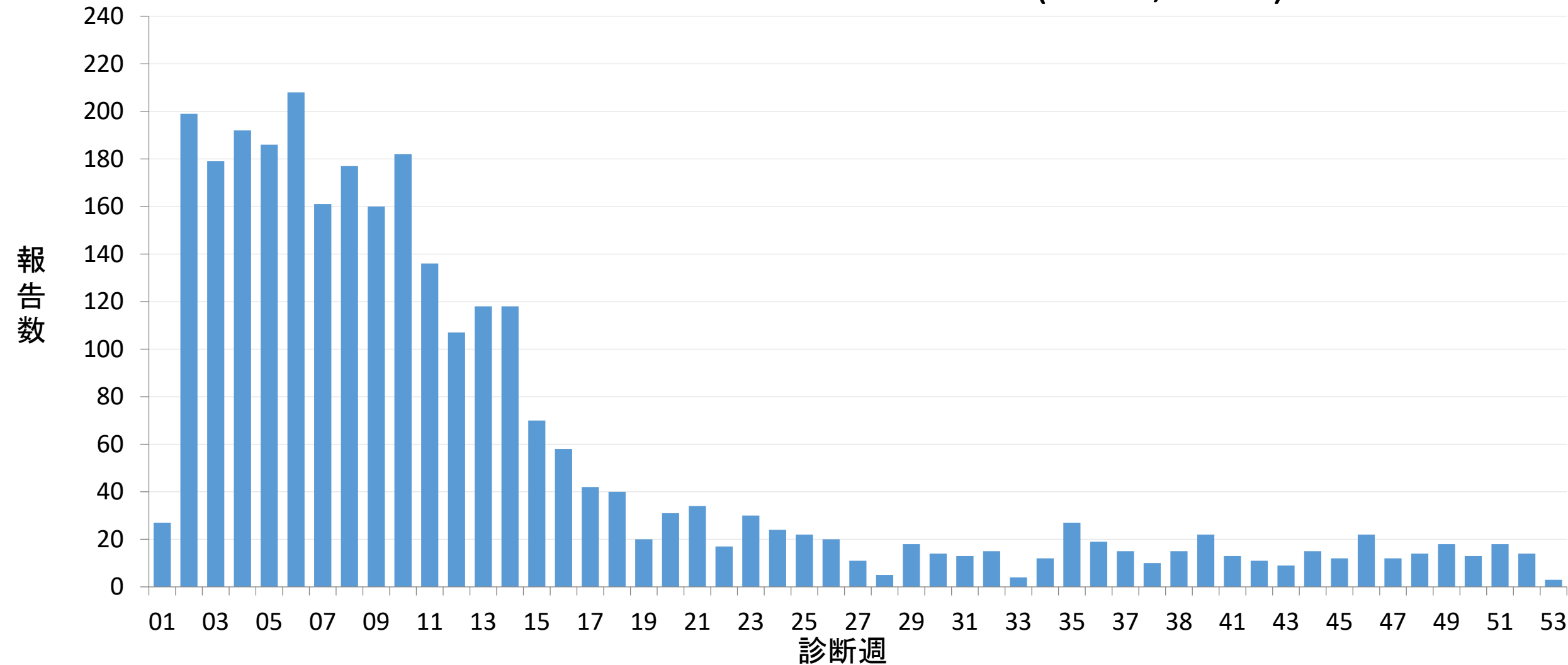
2020年第1週から第53週(*)までにNESID に報告された百日咳患者のまとめ

2020年第53週週報データ集計時点

国立感染症研究所

(*)第1週～第53週(2019年12月30日～2021年1月3日)

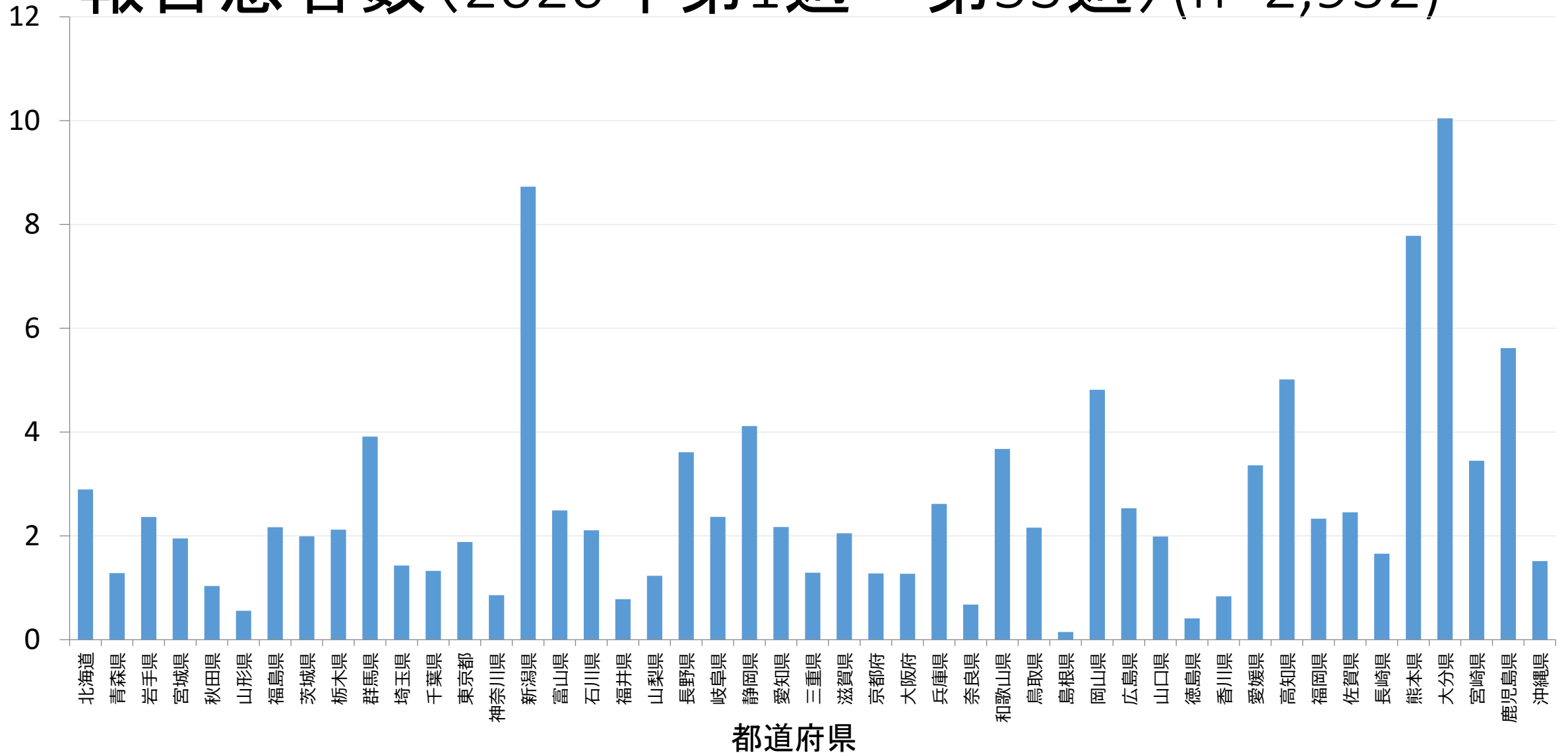
診断週別全百日咳患者報告数 (2020年第1週～第53週)(n=2,932)



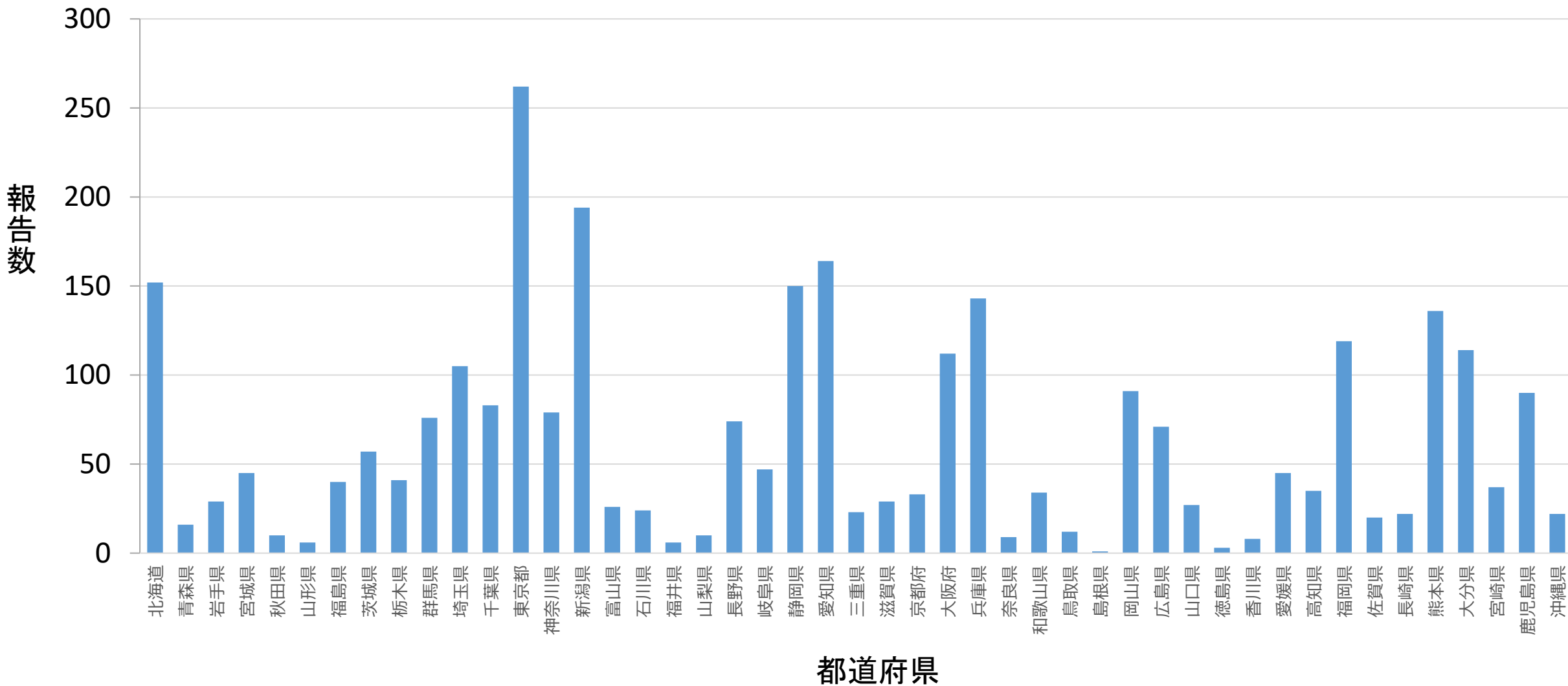
週の平均報告数: 55例 (範囲: 3~208例)

人口10万人あたりの都道府県別百日咳 報告患者数(2020年第1週～第53週)(n=2,932)

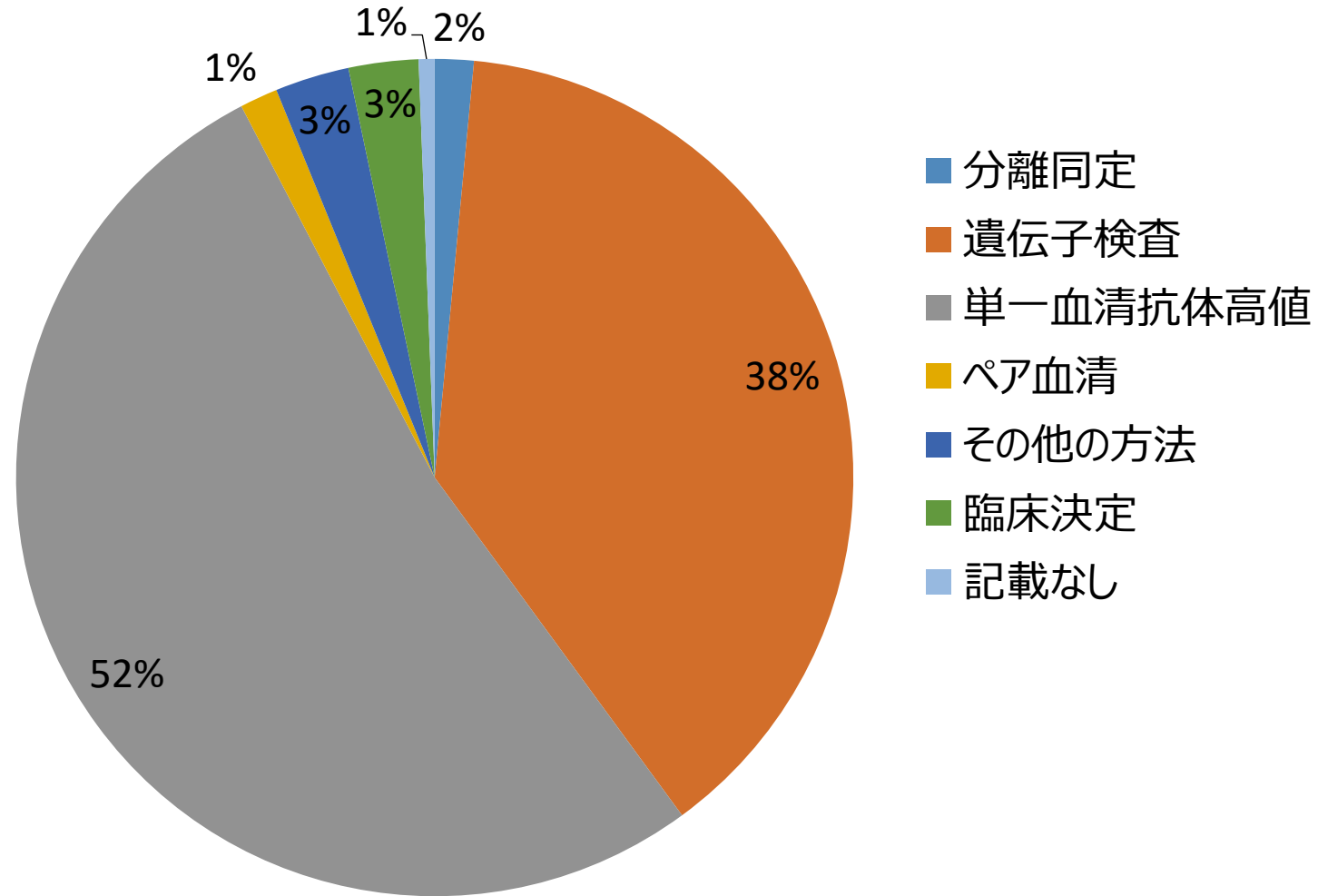
人口10万人あたりの報告数



都道府県別百日咳報告患者数 (2020年第1週～第53週)(n=2,932)

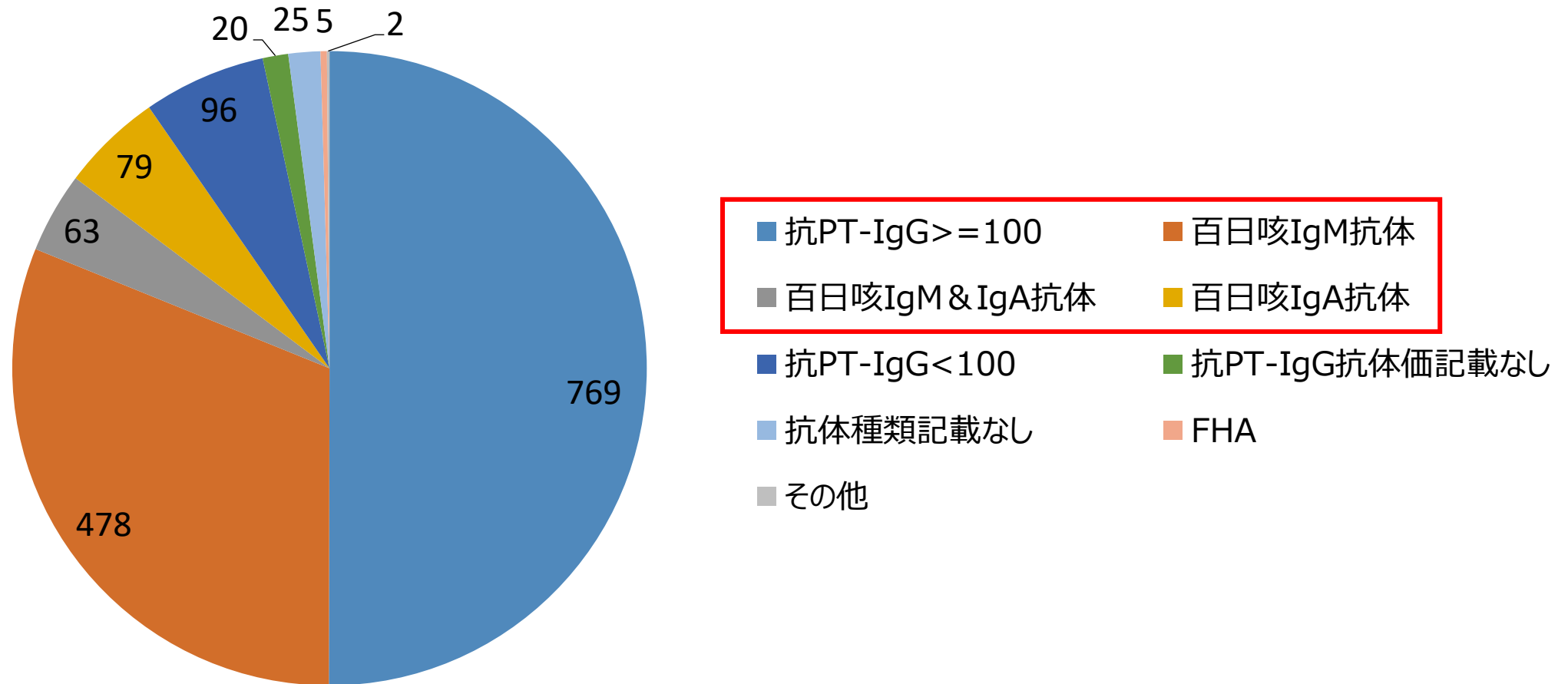


百日咳報告患者の診断方法 (2020年第1週～第53週)(n=2,932)



複数の検査法の記載がある場合、分離同定→遺伝子検査→ペア血清→単一血清抗体価高値の順に一つの診断法を決定
例) 分離同定と単一血清抗体価高値の記載がある場合には、分離同定を診断法とする

「単一血清の抗体価高値」を診断根拠に届けられた百日咳報告患者 (n=1,537) の検査結果内訳

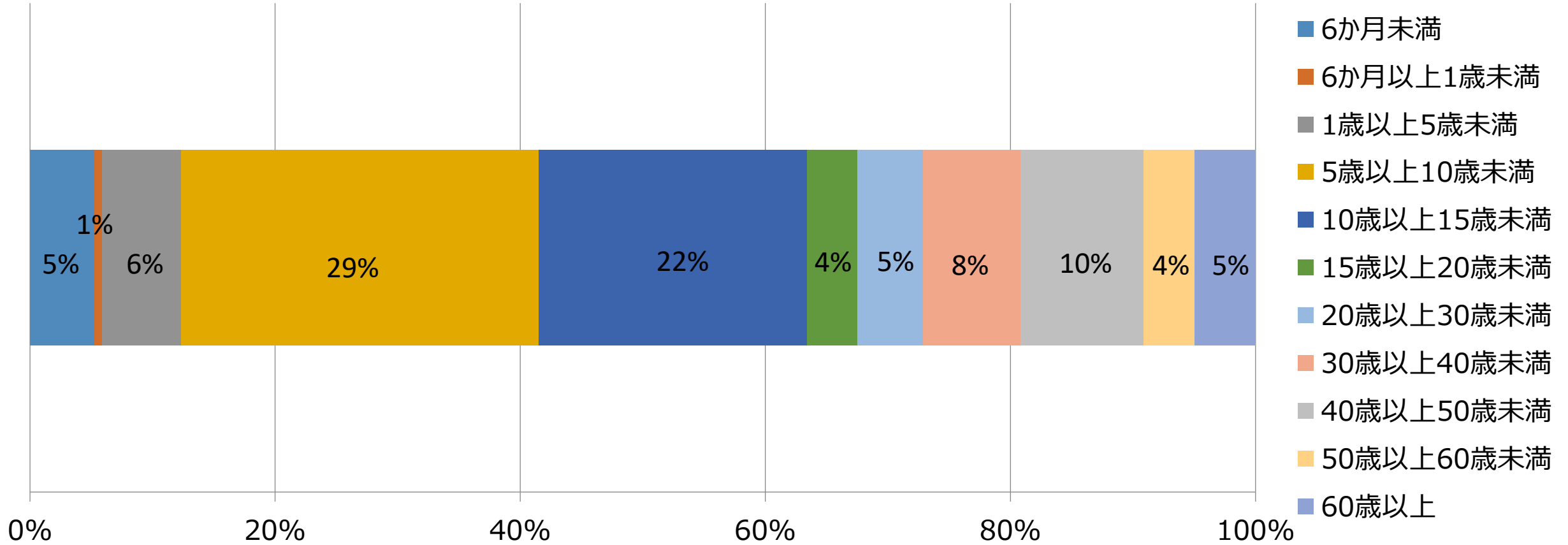


報告の約90%が届出ガイドライン*の診断基準を満たしていた（赤い四角の枠内）

(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（初版）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

届出ガイドラインの診断基準を満たした 百日咳患者症例^(*) (n=2,671)の各年齢群の割合 (2020年第1週～第53週)

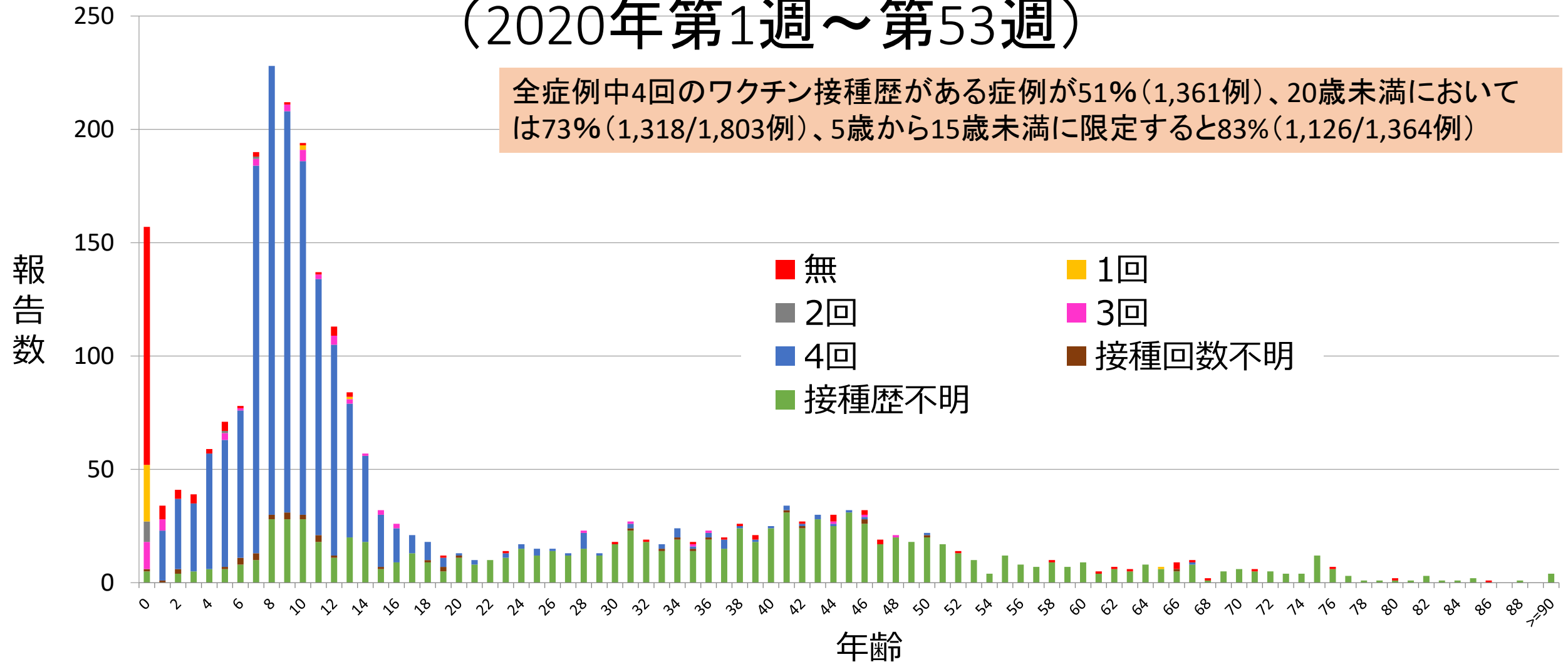


(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（初版）に則った症例のみを抽出

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

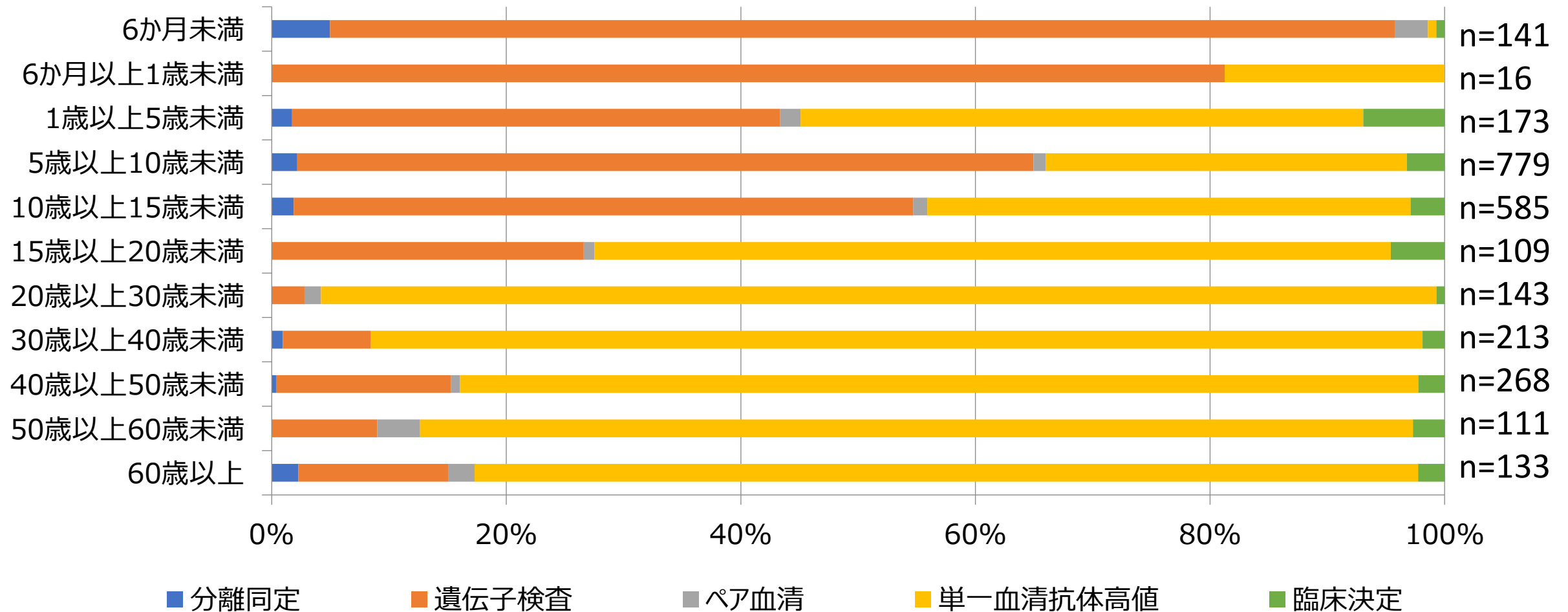
届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳患者症例^(*) (n=2,671)の年齢分布 (2020年第1週～第53週)

全症例中4回のワクチン接種歴がある症例が51% (1,361例)、20歳未満においては73% (1,318/1,803例)、5歳から15歳未満に限定すると83% (1,126/1,364例)



(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン (初版) に則った症例のみを抽出

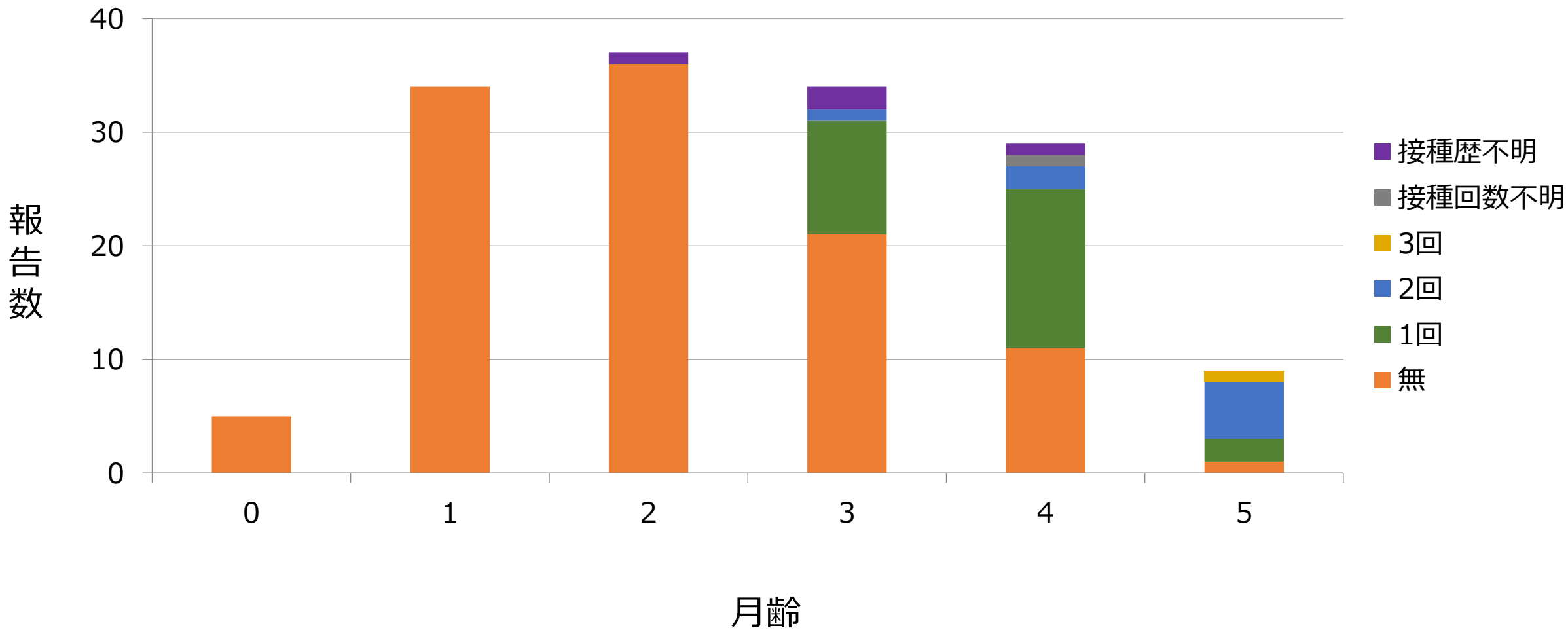
届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳症例(*)の年齢群別百日咳診断検査法の割合 (2020年第1週～第53週) (n=2,671)



(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（初版）に則った症例のみを抽出

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

6か月未満症例の月齢別報告数(ワクチン接種歴別) (2020年第1週～第53週) (n=148)



6か月未満症例の感染経路 (2020年第1週～第53週) (n=148)

推定感染経路	N (重複あり)	%
母親	23	16
父親	24	16
同胞	57	39
祖父母	10	7
家族内その他	12	8

家族内その他の内訳：いとこ(4)、親戚(2)、おじ(2)、おば(1)、甥(1)、曾祖父(1)、不明(1)

上記以外：家族内不明 38(26%)、幼稚園(1%)、不明 3(2%)

6か月未満症例の臨床症状・臨床経過 (2020年第1週～第53週) (n=148)

●NESID記載の症状

症状	N (重複あり)	%
チアノーゼ	47	32
無呼吸発作	30	20
肺炎	7	5
痙攣	0	0
脳症	0	0

上記以外で報告数が多い上位3症状

持続する咳	124	84
夜間の咳き込み	114	77
スタッカート	63	43

今回のまとめ

◆2020年第4四半期時点での百日咳報告患者についてまとめた

- 全報告百日咳患者数 2,932例
- 届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳患者数 2,671例
 - うち4回のDPTワクチン接種歴有の割合 51% (5~15歳未満に限定すると83%)
 - 入院例 51例

◆6か月未満、8歳をピークとした5~15歳、成人では40代に患者集積あり

◆小児ではLAMP法による診断、成人では単一血清抗体価による診断の割合が高いが、2019年と比べて全体的に遺伝子検査の割合が減少

【参考】百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン(初版)

- 感染研のホームページをご覧ください

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

- 届出ガイドラインは保健所に届け出る基準を示しており、臨床診断を目的としたガイドラインではない
⇒統一した基準で全国の百日咳の疫学情報を収集する目的
- 届出ガイドラインを満たさない百日咳症例(臨床診断例)もあり得る(治療や感染拡大防止策は同じ)